

白山市立蕪城小学校

建設概要

1.新小学校建設事業の主な経過

2.基本構想の概要

3.計画の概要

4.蕪城小学校の特徴

- (1). 各教室の特徴
- (2). 地域開放について
- (3). バリアフリーについて
- (4). 仕上げに関する特徴
- (5). 安全計画に関する特徴
- (6). 環境に関する特徴
- (7). 設備計画の特徴

5.建設概要

6.建物面積概要

7.新校舎建設に関わる全体経費

1. 新小学校建設事業の主な経過

○ 蕪城小の沿革

- 昭和37年4月 ・蕪城小学校創設(柏野、一木、出城、御手洗の4小学校を統合)
- 昭和38年12月 ・校舎棟竣工。翌年1月より新校舎へ入校。

○ 移転新築までの主な経過

- 平成12年 ・建築後40年を経過し、老朽化が激しい校舎の改築と区画整理による児童数の増加に伴う通学区域の見直しについて本格的に検討を開始。
- 平成13年5月 ・改築に向け校舎の耐力度測定を実施。
 - ・一木地区に対し蕪城小、松南小から松任小への校区変更を申し入れる。
 - この間、一木地区では学校等問題検討委員会を設置し校区変更について協議を重ねる。
- 平成13年10月 ・耐力度調査の結果、体育館以外は耐力度点数が5,000点未満の危険建物と判定。
- 平成14年4月 ・一木地区が松任小への校区変更を了承。
- 平成14年5月 ・市議会全員協議会に蕪城小改築に係る今後のスケジュール等について説明。
- 平成14年6～7月 ・建設位置について、議会、学校、PTA代表、出城地区町内会長、相木町内会長に対する説明会の開催。
 - ・北安田町内会へ建設位置の説明と協力依頼。
- 平成14年7月 ・文部科学省が蕪城小を視察。
- 平成14年8月 ・蕪城小学校建設基本構想検討委員会(委員14人)を設置し、新しい時代にふさわしいモデル校となるよう機能面、環境面について意見を求める。
- 平成14年10月 ・建設用地の測量開始。
- 平成14年11月 ・地権者との用地交渉開始。
- 平成14年12月 ・地権者と用地売買契約締結。
- 平成15年3月 ・蕪城小学校建設基本構想検討委員会が市長に報告書を提出。
 - ・検討委員会の報告に基づき基本設計業務を実施。
- 平成15年7月 ・実施設計業務を実施。
- 平成16年5月 ・敷地造成工事を実施。
- 平成16年7月 ・校舎・体育館・プール建設工事(建築、電気、空調、給排水)を実施。
 - ・地鎮祭及び起工式
- 平成17年7月 ・運動場(芝張)、外構、植栽工事の工事实施。
- 平成17年12月 ・校舎建築工事完成。
- 平成18年2月 ・校舎見学会(蕪城小学校下住民対象)
- 平成18年3月 ・運動場、外構、植栽工事完成
- 平成18年4月 ・開校式 入学式
 - ・学校見学会(一般市民対象)
 - ・竣工式

2. 基本構想の概要

(1) 心豊かな人間の育成に貢献できる学校づくりについて

- ・木材（木質系材料）をふんだんに使用した学校づくり
- ・環境保全に対応するエコスクール化の推進
- ・生き物を大切に、やさしさや思いやりを育むビオトープ
- ・四季折々の自然を感じさせてくれる学校の森
- ・土に親しみ散策できる遊びの丘
- ・豊かな心を育てる文化環境の整備
- ・校門から玄関までの情緒ある自然の小道

(2) 基礎、基本の重視と個性教育の推進に貢献できる学校づくり

- ・多様化する教育環境に対応できる教室づくり
- ・基礎学力の向上に資する多様、多目的な教室づくり
- ・食を大切に考え、豊かな心を育てるランチルーム
- ・学年全体で自ら企画、運営し活動できる広い空間の確保
- ・児童の見守りの場と児童と教師が交流できる空間づくり
- ・職員室の開放化と教室などに対する「空間のゆとり」の確保
- ・児童玄関と職員室の隣接設置

(3) 地域社会に開かれた新たな学習環境としての複合化した学校づくりについて

- ・特別教室棟を生涯学習施設として地域への開放
- ・グラウンド、体育館の地域への開放

(4) 地域のシンボルとして市民が誇れる学校づくりについて

- ・正面玄関の屋根に「八角形」をあしらった学校のシンボルの製作
- ・校門から玄関に通じる通路 ―「哲学の小道」―
- ・レンガ造りの外観
- ・学校正面に芝生に囲まれた大きな花時計の設置

(5) 地域と連携する施設、機能を有する学校づくりについて

- ・学校敷地内の学童保育の設置
- ・学童保育と保育所の連携
- ・学校の近くに児童センター（児童館）を整備
- ・学校ボランティアが利用できる部屋の設置
- ・地域で利用できる多目的スペースの設置
- ・学校近辺を地区の核とし、公的施設の拠点とする

(6) その他、学校施設の建設に関すること

- ・学校施設の配置、設備面
- ・維持管理、メンテナンスが容易な施設づくり
- ・バリアフリーについて
- ・災害時の安全対策について
- ・緊急時に対応できる学校内P H S 電話の設置
- ・通学路の交通信号機の設置

3. 計画の概要

○ 計 画 方 針

白山市は石川県加賀地方の中央部、金沢市の南西部に位置し、白山国立公園や、県内最大の流域を誇る1級河川手取川、白砂青松の日本海など、山、川、海の自然に恵まれた都市であります。

当計画は、白山市の中心部に近い「蕪城小学校」の移転改築事業です。新校舎の計画地は蕪城団地に隣接し、田園の広がる豊かな環境と白山連峰を望む豊かな景観を有し、児童にとってゆとりある学習環境を提供することのできる場所として期待されていました。

現在学校が抱える課題は多く、学習形態の多様化や安心して児童が生活できる環境・学校と地域の関わり方等、その解決が早期に望まれています。又、地域の特色や学校ごとの独自性が重要視され、従来の「画一的な学校」という固定的な枠組みが少しずつ取り払われ、いろんなスタイルの学校が生まれはじめています。

当計画では、子供達が主役となり生き生きと生活するこれからの教育環境として、次のようなテーマに添って計画を行いました。

- 感性を育て、生きることの喜びや充実感・学ぶことの楽しさを知り、心を豊かにする自然の溢れる環境の創造
- 様々な体験を誘発し、「生きる力」や「個性」を生み出し、主体的に行動する意欲を育成する建築環境の創造
- 人と人、人と自然、地域社会とのふれあいで、喜びや感動の生まれるコミュニティの場としての学校
- 情報化・国際化社会に対応した、多様な教育を実践できるインテリジェントスクール
- 災害時の非難施設として地域住民を守る、堅牢な建築
- 地域のランドマークとして、シンボリックな建築の創造

4. 蕪城小学校の特徴

子供たちの「学習の場」となる学校は、同時に一日の大半を過す「生活の場」となります。多様な学習環境の変化と共に、日々生活環境も変化してゆく現代において、子供たちの居場所づくりをテーマとした施設づくりを行いました。

- 内外部に自然素材を多用した、落ち着いた空間づくり
- 多様な空間配置による、子供たちのコミュニティの促進と、自由な発想や表現を創造できる環境づくり
- 自然を積極的に取り入れた、心のゆとりや生きる力を育む環境づくり
- 子供を見守る先生たちの場所づくりと、防犯設備の充実による安全な環境づくり
- 地域と学校の連携による、地域のランドマークとしての学校
- インテリジェントスクール・エコスクールとしての学校

(1). 各教室の特徴

◆ 1 階

普通教室	南北の2面採光による明るい教室。 可動式の間仕切（引戸）を設けたオープンスクール。
オープンスペース	学年ごとの教室間に設け、多様な学習形態に対応。 （グループ学習、学年集会、数クラス合同授業での活用）。 多様な空間構成による児童の居場所づくり。 ・デン 小さな囲われた空間で、子供のスケールに合わせた空間。 ・アルコール グループ学習などで、カウンターに集まって勉強ができる。 ・畳コーナー 子供たちが集って語らう場所。 ・表現の場 発表会などでステージとして使う子供たちが主役となる場所。
メディアホール	開放型の情報空間で、主に図書室として利用する。 家具のレイアウトにより、自由な読書環境がつけられるように、フレキシブルな空間となっている。 学校内で子供たちのふれあいが生まれる環境づくり。
職員室	児童昇降口横へ配置し、侵入者の監視体制を強化している。 内部外部とも、児童の様子が見えやすい開放的な空間。 40人程度の机配置が可能な広さで、教材製作のコーナーなども設けることができる。
体育館	プールと一体的な構成の、明るい運動環境づくり。 バレーボールのコートが2面取れる広さと高さがある。
大階段	2階からも体育館へ直接いけるよう配慮している。 発表会や演奏会、観覧席として使える空間。

保健室	運動場でケガをしても直に対処できる配置とし、専用のトイレとシャワー室を設けている。 保健室登校や自閉症など児童の心のケアのために、教育相談室や静養室をあわせ持っている。
和 室	授業では、作法室として、また被服授業、生活科などで活用する。 地域開放では、集会や茶道等に利用でき、使用しやすいように開放玄関の近くに配置している。
特別教室	図工室は木工教室、絵画教室、陶芸教室などに幅広く利用できる。 パソコン室もパソコン教室などで地域の方々も活用できる。
厨 房 (給食調理室)	厳重な衛生管理を行うため、汚染物を調理室内に持ち込まないよう、H A C C P (ハサップ) の概念を取入れた、作業内容に合わせた部屋の配置。 電化厨房とドライシステムにより、更なる安全性の強化と、作業環境の向上を図っている。
◆ 2 階	
ランチルーム	2 学年分 (2 4 0 人分) の広さがある食事空間。 あたたかい雰囲気が出るように、平面形状や内装に変化をもたせている。
調理室	調理や被服の授業を行う家庭科室。 実習が中心となるため、移動式ホワイトボードを利用し、廊下からも光を取り入れた明るい教室としている。
ランチテラス	給食や調理実習で作った食事を外でも食べられるように、専用のテラスを用意している。
音楽室	楽器の演奏や映像での授業など、それぞれの雰囲気に合った教室を 2 部屋用意。地域の方々も合唱練習などで活用できる。 音が伝わりにくいよう前室を設けており、楽器のパート練習などにも利用できる。
職員会議室	職員全体での会議が行える部屋。 校長会や総会などに活用できる、最大 4 2 人収容の会議室。
P T A 会議室	P T A 活動の拠点として設けられた部屋。 書類の整理や、資料づくりなどが行える。

(2). 地域開放について

学校と地域が一体となって児童を見守る上で、学校を地域に開くことが大切となります。そのため、地域開放用の玄関やホールを設け、地域の方々に自分達の施設として利用していただけるように配慮しています。

地域の方々が利用できる場所は、体育館や和室が中心となり、図工室や音楽室、パソコン室なども、陶芸教室や合唱練習などに活用していただけます。

新校舎は、児童達とのふれあいや、利用者同士でコミュニケーションが行える「コミュニティースクール」として計画されました。

(3). バリアフリーについて

新校舎では、石川県バリアフリー条例、ハートビル法に則した施設づくりを行っており、障害児・障害者・高齢者が安全に利用できるよう配慮されています。

- ・障害者対応のエレベーター設置
- ・床段差の解消
- ・階段部の手摺・点字ブロック整備と、緩やかなスロープの設置
- ・廊下の幅員を広く整備
- ・廊下各所に休憩スペースとなるベンチの設置
- ・車椅子利用者や幼児のオムツ替などに使える多目的WC整備
- ・アプローチの誘導ブロック設置
- ・車椅子利用者専用の駐車場整備（2台分）

(4). 仕上げに関する特徴

○ 外壁レンガ積み

外装仕上げは国産のレンガ積み。コンクリート躯体とレンガの間に空間をつくる中空積みと、コンクリートの外側表面に断熱層を設ける外断熱を採用しています。

国産レンガは外国産レンガに比べ、「強度が高い」「風化しにくい」「凍害を受けにくい」などの利点を持ち、長期間性能を保つことができます。北安田町は、海岸線から近く海風も強いいため、国産レンガを採用しています。（約42万個）

〈 効 果 〉

- ・外気からの影響を受けにくくなり、コンクリートの劣化を防げる。
- ・空間部分で溜まった熱を自然換気することにより、断熱効果が高くなる。
- ・レンガ表面の白華が起りにくい。

○ 木質系の内装

内部の仕上げを木質化することにより、子供たちの心理を落ち着かせる効果があり、気持ちに「ゆとり」や「安らぎ」を与えます。

本校舎で使用されている内部板張りや柱材は、全て白山麓産の杉材を使用しています。建具や枠材などは長く使われるように強度の高いタモの積層材を使用。2階オープンスペースの屋根構造材やランチルームの天井化粧梁は、強度が高いベイマツ集成材を使用しています。

○ 地元産材の活用

地元産業の活性化と地域に密着した施設づくりとして、白山市産・石川県産の材料を各所に使用しています。

◇ 主な材料

- | | | |
|-------|--------------|------------------------|
| ・内装杉材 | ：白山麓産（主に白峰産） | 約 1 3 5 m ³ |
| ・屋根瓦 | ：小松瓦（防災仕様） | 約 1 1 万枚 |
| ・タイル | ：県内メーカー産 | |

（５）．安全計画に関する特徴

子供たちが安心して学校生活を送れるよう、安全環境にたいする配慮をおこなっています。職員室は 1 階の児童玄関脇に配置し、日中の来客は職員室横の来客玄関からの出入りに限定することにより、不審者の侵入を防ぎます。また、各オープンスペースには、教師の待機場所としても活用できる教師コーナーを設けています。

普段の学校生活の主な場所となるクラスルーム廻りは、敷地外周にフェンスを設け、敷地の入口には門扉を設置することで、安心して外遊びのできる環境としています。

また、地域における災害時の防災施設として、地域の避難場所となるため、構造的にも通常の建物よりも 1. 2 5 倍の耐震性が確保されるよう、安全性の向上が図られています。

（６）．環境に関する特徴

◇ リサイクル製品の活用

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・浄水場発生土、陶磁器くず利用タイル | （開放WC壁タイル） |
| ・瓦、アスファルト廃材利用舗装材 | （外構舗装） |
| ・ペットボトル再生防球ネット | （グラウンド防球ネット） |
| ・廃フライアッシュ利用土壌改良材 | （グラウンド土壌改良材） |

◇ 省エネルギー環境の整備

- ・自然採光による電灯設備負荷の軽減
- ・断熱ガラスによる暖冷房設備の負荷軽減

◇ 外部自然環境との共生

- | | |
|----------------|--------------------|
| ・せせらぎ、ビオトープの整備 | （生態系の授業に活用） |
| ・既設学校からの樹木の移植 | （樹木の有効利用） |
| ・敷地内の緑化 | （環境負荷の低減、虫や鳥などの環境） |
| ・グラウンドの芝舗装 | （砂の飛散防止、環境負荷の低減） |
| ・透水性舗装の採用 | （雨水の自然への循環） |

(7). 設備計画の特徴

多種多様な使用形態に柔軟に対応する学校として、安全性・機能性・経済性・耐久性・清潔性は勿論のこと、省エネルギーや資源製にも充分配慮した設備計画としています。

○ 環境への配慮を取り入れた設備

◇自然エネルギーの有効利用

- ・風力、太陽光発電システム

発電設備は、主に教育の一環として設置しています。発生した電力は一般電源の補助電源として活用し、自然エネルギーによる省エネを図っています。発電状況を逐次計測し、その結果を子供たちが閲覧できるタッチパネル式表示盤を、1階職員室前に設置。LANにより各所からのアクセスも可能です。

(太陽光：年平均 約1,450Wh/日、2クラス分の照明消費量)

(風力：年平均 約1,300Wh/日、2クラス分の照明消費量)

- ・クリーンエネルギーの利用・夜間電力の利用

クリーンなエネルギー利用として、オール電化による施設づくりを行っています。周辺環境の保全はもとより、防災施設として災害時における復旧の早さや建物に対する安全への影響などを考慮しています。

ランニングコストを抑えるため、夜間電力を利用する蓄熱型個別電気暖房機の採用や、メディアホールの蓄熱式電気床暖房を採用しています。

- ・雨水再利用システム

体育館や保健室などの屋根から雨水を収集し、床下ピット内の雨水貯留槽に貯水しています。(大階段下部ピット、120m³)

ろ過滅菌後、トイレの洗浄水に使用しています。また、雨水の不足時には井水を使用し水量を確保しています。

- ・井水の有効利用

敷地隅に井戸を掘削し、敷地内散水・駐車場融雪・せせらぎ給水・グラウンド散水及び、中水の補給水・プール給水に使用しています。

○ 情報教育に対応した設備

- ・無線LAN

インテリジェントスクールへの対応として、本学校においてもLAN設備を導入しています。職員室・メディアホール・クラスルーム・ランチルームの4箇所は、自由に接続可能となる無線LANを採用し、フレキシブルな学習環境に対応します。

- ・映像設備

各教室の映像設備として液晶プロジェクターを採用しています。CATV放送並びにLANによりパソコンを経由し教材資料を表示させることが可能です。

普通教室には天吊型の液晶プロジェクターが常設しており、特別教室やアリーナは可動式の液晶プロジェクターを利用し、授業に活用することができます。

○ 安全を支える設備

・校内PHSの採用

校内における緊急時の連絡など、迅速な情報伝達の設備として校内PHSを採用しています。建物内各所や屋外運動場、プールにもアンテナを設置し、通信可能な状態としています。

・監視カメラの設置

児童玄関と来客玄関に監視カメラを設置。受像画面と受信記録を職員室にて確認し、日常の安全監視を行います。

カメラの監視方向や表示サイズは、パソコン接続により操作可能で、LAN経由によって各受口（パソコン上）からも受像が可能です。また、受信画像は1週間単位でハードディスクに保存されます。

・厨房のオール電化、ドライシステム

電化厨房、ドライシステムの導入により、HACCP（ハサップ）の概念に則した衛生管理に対応できる厨房としています。給湯は7,000ℓの大型電気温水器により貯湯されたものを使います。

○ 電気設備概要

・受変電設備

（受電）高圧6.6kV 3相3線

（容量）一般電灯、一般動力、深夜動力 合計 2,000kVA

・避雷設備

建築基準法では設置不要（最高高さ20m以下）であるが、自主設置。

・風力・太陽光発電設備

（風力発電システム） プロペラ式 単相3線 200V 4.0kW×1基

高さ 約12m プロペラ直径4.4m

（太陽光発電システム） 単相3線 200V 4.0kW×1組（125Wパネル×32枚）

大きさ 9.5m×3.2m メディアホール上部屋根に設置

・電話・CATV設備

民間CATVより放送受信。

双方向送信により放送室から各所に配信並びに校内からの逆送放送も可能。

・映像・音響設備

教室の映像設備として液晶プロジェクターを採用。

・情報通信網設備

校内LAN設備を整備。各普通教室内等は無線LANを採用

・監視警報警備設備

児童玄関と来客玄関に監視カメラを設置。（計2台）受像と受信記録を職員室に設置。

・屋外夜間照明設備

照明塔 6基 （8灯用×4基+6灯用×2基） 投光器 1.0kW 単相 200V

照度パターン サッカー用：平均 143 lx

野 球 用：平均（内野）304 lx（外野）152 lx

○ 給排水衛生設備概要

・ 給水設備

○上 水

敷地全面道路給水本管より引き込み、受水槽に貯水後、加圧給水ポンプにて各所に給水。
厨房関係、1F開放便所は直圧にて給水。

○中 水

雨水を沈砂槽に經由後、床下ピット内の雨水貯留槽に貯水。
ろ過、滅菌後、加圧給水ポンプにてトイレの洗浄水に使用。

○井 水

敷地隅に井戸を掘削し、井戸ポンプ、圧力タンクを設置。

・ 排水設備

屋内の排水は、敷地外周に敷設されている下水本管に接続。
厨房排水、調理室排水はグリーストラップを設置。

・ 給湯設備

湯沸しなど局所的にお湯が必要な箇所は、貯湯式電気温水器を設置。
調理室、理科室はガスを使用するため、ガス瞬間湯沸器を設置。

・ 消火設備

屋外消火栓、屋内消火栓を設置。（屋内消火栓は自主設置）
消火ポンプ等は屋外消火栓、屋内消火栓兼用としている。

・ 厨房機器設備

電化厨房、ドライシステムに対応した厨房機器を採用。

・ ガス設備

プロパン庫に設置のプロパンボンベよりガスを供給。
理科室での実験用、調理実習のガスコンロ用として使用。

・ グラウンド散水

スプリンクラーヘッドを4箇所を設置し、自動でグラウンドの散水を行う。
スプリンクラーの開閉は職員室で操作。（同時に散水できるのは1箇所）
タイマーにて一晩にグラウンド全体を散水することができる。（2時間×4＝8時間）

・ せせらぎ給水

せせらぎやビオトープの給水は井水を利用。
給水の開閉は職員室で行うことができる。

○ 空調設備概要

・ 冷房設備

特別教室の一部、及び職員関係室に電気式パッケージエアコンを設置し冷房を行う。
各教室にリモコンスイッチを設置すると同時に、職員室に集中管理リモコンを設置。

設置室	1 F	コンピューター室、和室、メディアホール 職員室、印刷室、小会議室、校長室 校務員室、教育相談室、静養室、保健室、厨房関係
	2 F	ランチルーム、メディアホール 放送室、PTA会議室、職員会議室
将来対応	1 F	理科室、図工室
	2 F	音楽室、調理室（家庭室）

・ 暖房設備

各室に深夜電力を利用した蓄熱式電気暖房器を設置。
蓄熱量の制御は外気温度を感知して行う。
各室の蓄熱式電気暖房器は職員室に設置した制御盤にて運転管理を行う。

・ 床暖房設備

メディアホールに深夜電力を利用した電気式蓄熱床暖房を設置。

・ 換気設備

シックハウス対策として、各教室に全熱交換器を設置。
各教室にリモコンスイッチを設置すると同時に、職員室に集中管理リモコンを設置。

5. 建設概要

全体概要

建設場所 : 白山市北安田町 3 5 5 番地
敷地面積 : 2 7, 8 5 0 m² (8, 4 2 5 坪) (旧校舎の敷地面積 1 3, 5 6 7 m²)

建物概要

構 造 : 鉄筋コンクリート造、一部木造及び鉄骨造
階 数 : 2 階建て、一部塔屋
建築面積 : 6, 3 1 8 m² (付帯施設 6 6 m²)
延床面積 : 9, 7 6 6 m² (付帯施設 6 6 m²)
最高の高さ : 1 9. 8 8 m

屋外施設概要

プ ー ル : F R P 製、2 5 m 5 コース、低学年用プール (H=70cm) を併設。
グラウンド : 2 0 0 m トラックと少年野球内野以外は芝舗装 (高麗芝)
外部環境 : (外部施設) セサラギ、ビオトープ、動物小屋、温室、砂場、農園など
(特 色) 瓦やアスファルト廃材を利用した舗装
曲線やマウンドをつくり、自然の造形美を図る
駐 車 場 : 常設 6 4 台、臨時 4 3 台 合計 1 0 7 台駐車可能
植樹・植栽 : 既設小学校より樹木を移植 (サクラ、松など 計 4 5 本程度)
環境教育を目的として、実の成る木やドングリの木を植樹

工事概要

工事期間	: 造 成 工 事	平成 1 6 年 5 月 ~ 平成 1 6 年 8 月
	建物建設工事	平成 1 6 年 8 月 ~ 平成 1 7 年 1 2 月
	屋外付帯工事	平成 1 7 年 7 月 ~ 平成 1 8 年 3 月
設計監理	: 測量・造成	エーブルコンサルタンツ株式会社
	建 築	株式会社 浦建築研究所
	設 備	株式会社 アスカ設備研究所
施工業者	: 造 成 工 事	有限会社 喜成建設
	建 築 工 事	大林・城東・古野特定建設工事共同企業体
	電 気 設 備 工 事	第一電機・島野電機特定建設工事共同企業体
	給排水衛生設備工事	ダイダン・蓮池管工特定建設工事共同企業体
	空 調 設 備 工 事	アムズ・林管工特定建設工事共同企業体
	外 構 工 事	株式会社 新井組
	屋 外 運 動 場 工 事	日本海工業株式会社
	植 栽 工 事	株式会社 植吉造園
	屋外電気設備工事	第一電機工業株式会社
	屋外給排水設備工事	蓮池管工株式会社
	風力発電設備工事	ニッコー株式会社

6. 建物面積概要

○ 各室面積表

1 階

2 階

クラスルーム（1室）	7 1 m ²	クラスルーム（1室）	7 1 m ²
オープンスペース	1 9 8 m ²	オープンスペース	1 9 3 m ²
職員室（印刷、湯沸除く）	2 2 9 m ²	ランチルーム	3 9 7 m ²
小会議室	2 1 m ²	第一音楽室	1 2 2 m ²
校長室	4 2 m ²	第二音楽室	9 1 m ²
メディアホール	4 4 4 m ²	調理室（家庭室）	1 0 8 m ²
パソコン室	1 1 1 m ²	職員会議室	9 5 m ²
図工室	1 4 5 m ²	P T A会議室	2 4 m ²
理科室	1 2 6 m ²	放送室	1 7 m ²
和 室（3 6 帖）	7 3 m ²		
保健室	1 2 1 m ²		
静養室	1 6 m ²		
教育相談室	3 1 m ²		
アリーナ(体育館)	7 3 6 m ²		
ステージ	7 0 m ²		
大階段	7 0 m ²		
厨 房（給食調理室）	4 0 0 m ²		

○ 外部面積データ

中 庭 面 積 : 4 6 9 m²

屋外運動場面積 : 8, 9 2 5 m²

プール水面積 : 4 0 9 m² (2 5 m 3 0 0 m² + 低学年 1 0 9 m²)

7. 新校舎建設に関わる全体経費

単位:千円

	経費内訳	経費合計
用地費	32 筆 26,090 m ²	710,540
設計費	土質調査 3,360	
	基本設計 22,365	
	建築実施設計 40,530	
	設備実施設計 15,225	
	運動場実施設計 1,292	
	小 計	82,772
敷地造成費		29,064
校舎建設費	建築工事 1,900,500	
	電機設備工事 248,850	
	空調設備工事 177,975	
	給排水衛生設備工事 216,300	
	小 計	2,543,625
屋外付帯工事費	建築工事 19,583	
	外構工事 136,395	
	電気設備工事 33,600	
	給排水設備工事 11,340	
	風力発電工事 11,445	
	植栽工事 30,555	
	屋外運動場工事 86,100	
	小 計	329,018
工事監理費	建築工事監理 25,325	
	設備工事監理 11,697	
	小 計	37,022
備品費		41,500
合 計		3,773,541

